

田辺市健康づくり計画「元気たなべ」2013
市民アンケート結果の概要
(平成29年10月実施)

平成30年2月
田辺市健康増進課

〈内 容〉

1. 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象
- (3) 調査方法
- (4) 調査期間
- (5) 回収状況
- (6) その他

2. 結果の概要

- (1) 回答者の属性について
- (2) 食生活について
- (3) 歯について
- (4) 運動について
- (5) 睡眠・ストレスについて
- (6) 飲酒について
- (7) 喫煙について
- (8) 地域とのつながりについて
- (9) 元気度について
- (10) 健診について
- (11) 身体状況について

3. アンケート調査票

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

市では、「豊かな人生」の実現、またその基礎となる「心身ともに健康である」という願いの実現のため、国の「健康日本 21（第二次）」の計画に基づき、田辺市健康づくり計画「元気たなべ」2013 を策定し、各種事業を実施してきた。今回、健康状態や生活習慣などについてのアンケート調査を行うことにより、平成 30 年度に本計画の中間評価を行う指標とするとともに市民の方々の健康づくりに役立てていくための基礎データとする。

(2) 調査対象

20 歳から 64 歳までの田辺市民のうち 4,000 人を地域年齢別に人口比率で無作為抽出。

(3) 調査方法

自記式の調査票を作成し、郵送により配布及び回収を行った。

調査項目は、性別、年代、身長・体重、適正体重、食生活、歯、運動、睡眠・ストレス、飲酒、喫煙、地域とのつながり、元気度、健診等について 47 項目である。

(4) 調査期間

平成 29 年 10 月 12 日（木）～ 10 月 31 日（火）

(5) 回収状況

	実績値	備考
① 配布数	4,000 枚	
② 有効配布数	3,985 枚	配布数から転居先不明など配布されなかった調査票数を除いたもの
③ 有効回答数	1,508 枚	無効票(無回答など)を除いたもの
④ 有効回答率	37.8%	③有効回答数÷②有効配布数×100

(6) その他

- このアンケート調査結果集計は、IBM SPSS Statistics ver.20 を用いて行った。
- このアンケート結果に掲載している数値は、四捨五入のため、内訳合計が総数に合わないことがある。

2. 結果の概要

(1) 回答者の属性について

回答者総数内訳（男性 43.4%、女性 56.6%）

① 性・年齢階級別分布

（ ）内はパーセント

	男性		女性		全体	
20歳代	68	(10.4)	87	(10.2)	155	(10.3)
30歳代	122	(18.6)	169	(19.8)	291	(19.3)
40歳代	144	(22.0)	219	(25.7)	363	(24.1)
50歳代	205	(31.3)	235	(27.5)	440	(29.2)
60～64歳	116	(17.7)	143	(16.8)	259	(17.2)
計	655	(100.0)	853	(100.0)	1508	(100.0)

② 住所

年代	性別	田辺	龍神	中辺路	大塔	本宮	不明
20歳代	男性	58 (10.5)	2 (7.1)	2 (8.3)	1 (4.0)	3 (13.6)	2 (50.0)
	女性	78 (10.8)	3 (6.3)	1 (3.4)	2 (8.3)	3 (10.7)	0 (0.0)
30歳代	男性	107 (19.4)	2 (7.1)	4 (16.7)	6 (24.0)	3 (13.6)	0 (0.0)
	女性	148 (20.6)	8 (16.7)	6 (20.7)	5 (20.8)	2 (7.1)	0 (0.0)
40歳代	男性	123 (22.3)	4 (14.3)	6 (25.0)	3 (12.0)	7 (31.8)	1 (25.0)
	女性	192 (26.7)	11 (22.9)	4 (13.8)	5 (20.8)	6 (21.4)	1 (25.0)
50歳代	男性	172 (31.2)	9 (32.1)	9 (37.5)	8 (32.0)	6 (27.3)	1 (25.0)
	女性	192 (26.7)	13 (27.1)	11 (37.9)	8 (33.3)	9 (32.1)	2 (50.0)
60歳代	男性	92 (16.7)	11 (39.3)	3 (12.5)	7 (28.0)	3 (13.6)	0 (0.0)
	女性	110 (15.3)	13 (27.1)	7 (24.1)	4 (16.7)	8 (28.6)	1 (25.0)
計		1272 (100.0)	76 (100.0)	53 (100.0)	49 (100.0)	50 (100.0)	8 (100.0)

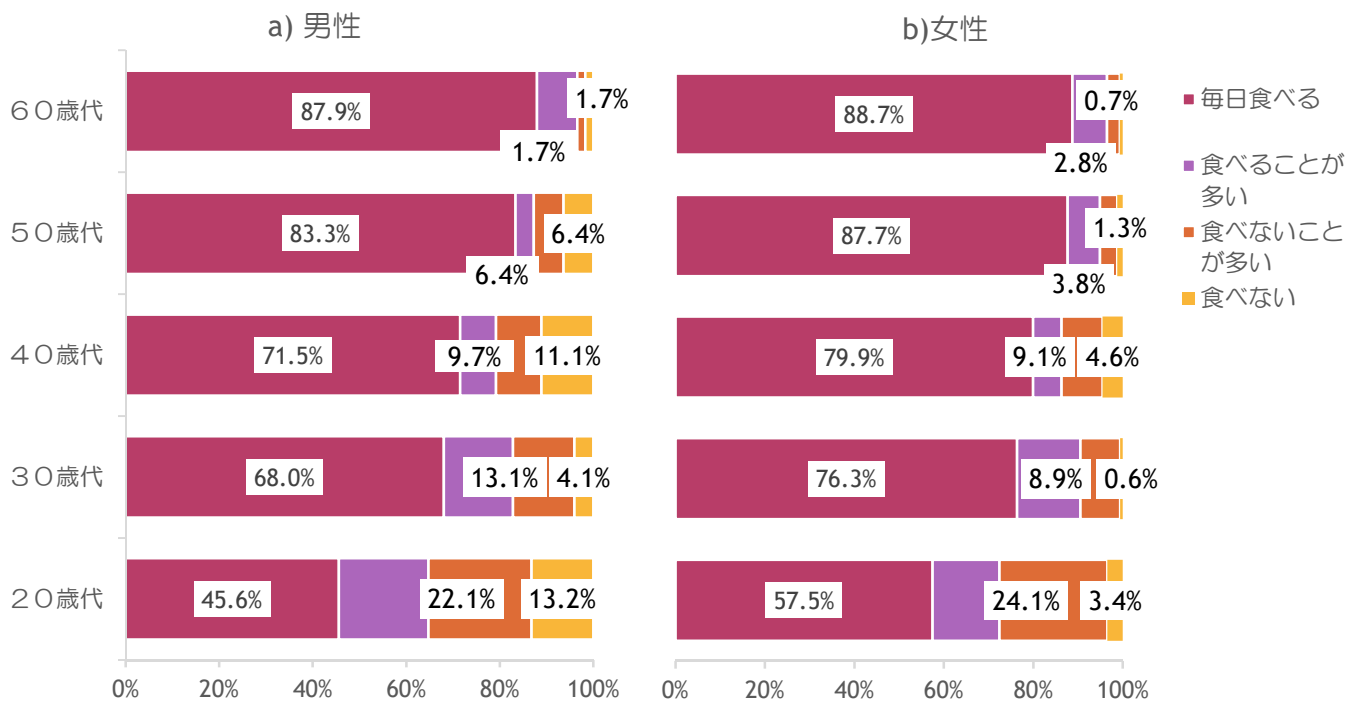
(2) 食生活について

① 朝食の摂取状況（アンケート調査票「問1」の結果）

朝食の欠食の割合は、男性 16.1%、女性 10.2%で、年齢階級別でみると、男女ともに 20 歳代で最も高い。

「朝食を食べない」又は「食べないことが多い」と回答した 20 歳代男女の割合は、それぞれ 35.3%、27.5%であった。平成 28 年国民健康・栄養調査では、「朝食を欠食する人の割合」が 20 歳代男性 37.4%、女性 23.1%であったのに比べ、男性は低いが、女性で高い傾向にある。

なお、朝食を「毎日食べる」と回答した者の割合は、男性 74.8%、女性 80.5%で、平成 23 年の「田辺市健康づくり計画」最終評価のためのアンケート（以下「前回」と表記）では、男性 72.8%、女性 85.6%であり、男性の朝食を摂取する者の割合は増加したが、女性は減少している。

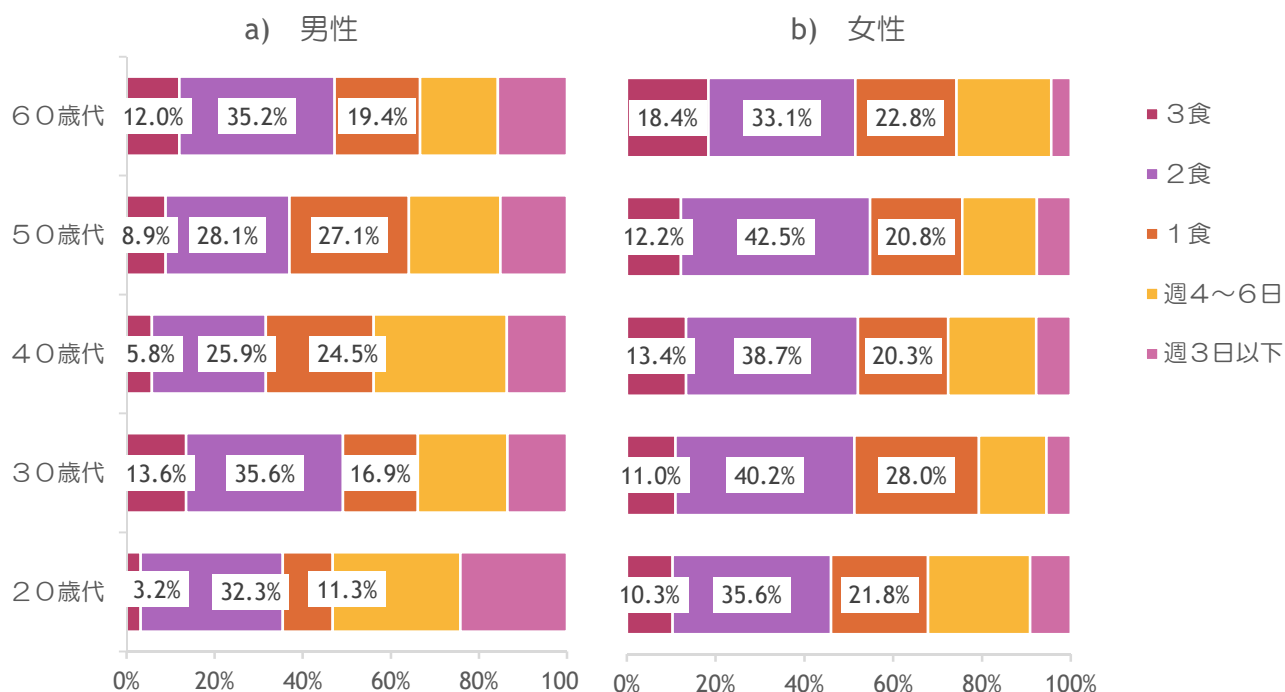


(2) -① 朝食の摂取状況

② 野菜・きのこ・海そうの摂取状況（問2の結果）

野菜・きのこ・海そうを「毎日食べる」と回答した人は、男性 61.3%、女性 74.4%（前回：男性 63.6%、女性 79.2%）である。

男女比較すると、女性の方が摂取頻度は高い。また、「毎日食べる」と回答した者のうち、その回数については「3食とも食べる」者の割合は、男性 9.0%、女性 13.1%（前回：男性 12.5%、女性 15.4%）であり、年齢階級別にみると、男女とも 20 歳代で最も少ない状況である。



(2) -② 野菜・きのこ・海そうの摂取状況

③ 乳製品の摂取状況（問3の結果）

乳製品（牛乳・ヨーグルト・チーズ）を「ほとんど毎日食べる」と回答した者の割合は男性 4 割、女性 5 割である。

乳製品の摂取頻度は「ほとんど毎日食べる」と回答した者は男性 39.3%、女性 51.8%（前回：男性 31.7%、女性 50.3%）で女性の方が高い。また、男女ともに年齢階級が上がるにつれ、摂取頻度は高くなっている。

④ 果物の摂取状況（問4の結果）

果物を「ほとんど毎日食べる」と回答した者の割合は、男性 16.4%、女性で 25.3%（前回：男性 17.0%、女性 28.7%）である。

男女比較すると、女性の方が高い。また、年齢階級別では、男女とも年齢が上がるにつれて摂取頻度が高くなっている。

⑤ 塩分を多く含んだ食品の摂取状況（問6の結果）

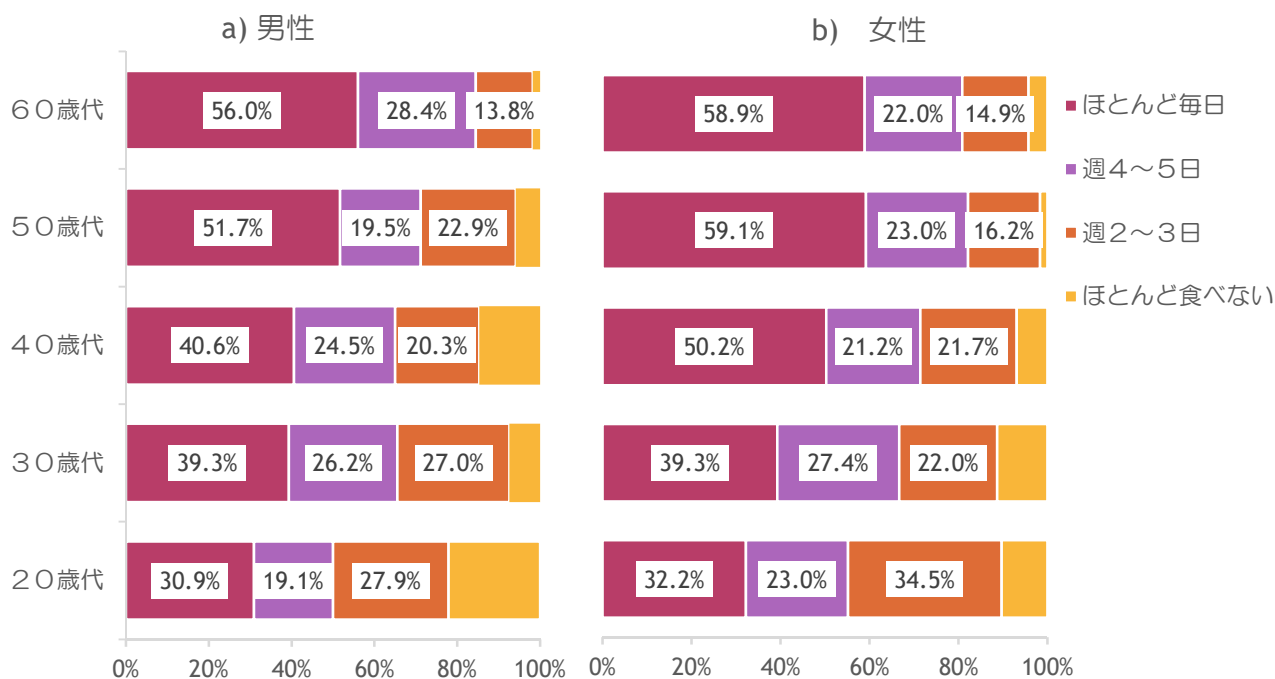
「佃煮、漬物、梅干、干物、ねり製品、ハム・ウインナー、汁物」を1日2回以上食べると答えた者は、全体で2割強である。

「佃煮、漬物、梅干、干物、ねり製品（ちくわ・かまぼこなど）、ハム・ウインナー、汁物を1日何回食べますか」に対し、「1日2回以上」と回答した者は、男性で21.7%、女性25.4%、全体23.8%である。また、年齢階級別では、年齢が上がるにつれて高くなる傾向である。

⑥ 主食、主菜、副菜を組み合わせた食事の摂取状況

主食、主菜、副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが、「ほとんど毎日」の割合は、男性45.6%、女性50.1%である。

年齢階級別にみると、男女ともに若い世代ほどその割合が低い傾向にある。平成27年国民健康・栄養調査での同様の質問で「ほとんど毎日」の割合は、20歳男性で39.1%、女性38.4%であるのに比べ、20歳男性30.9%、女性32.2%と低い傾向である。



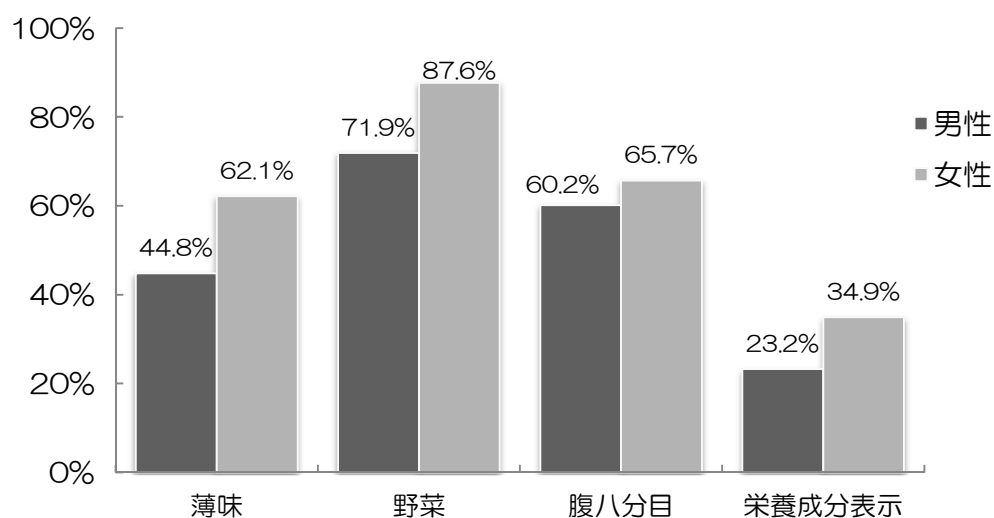
(2) -⑥ 主食、主菜、副菜を組み合わせた食事の摂取状況

⑦ 食事についての意識（問7の結果）

「野菜を毎日必ず食べるように心がけている」が男性 71.9%、女性 87.6%である。

「薄味」「毎日必ず野菜の摂取」「栄養成分表示の利用」「適切な食事量」といった食生活や栄養に関する4項目を回答してもらった結果、男女とも「野菜を毎日必ず食べるように心がけている」が最も多い。

さらに、全ての項目において、男性よりも女性の方が、また、若年層よりも高年齢層の方が、普段から食生活や栄養摂取に気をつけている者の割合に高い傾向がみられる。



(2) -⑦ 食事についての意識

(3) 歯について

① 歯や歯ぐきの自覚症状の有無（問8の結果）

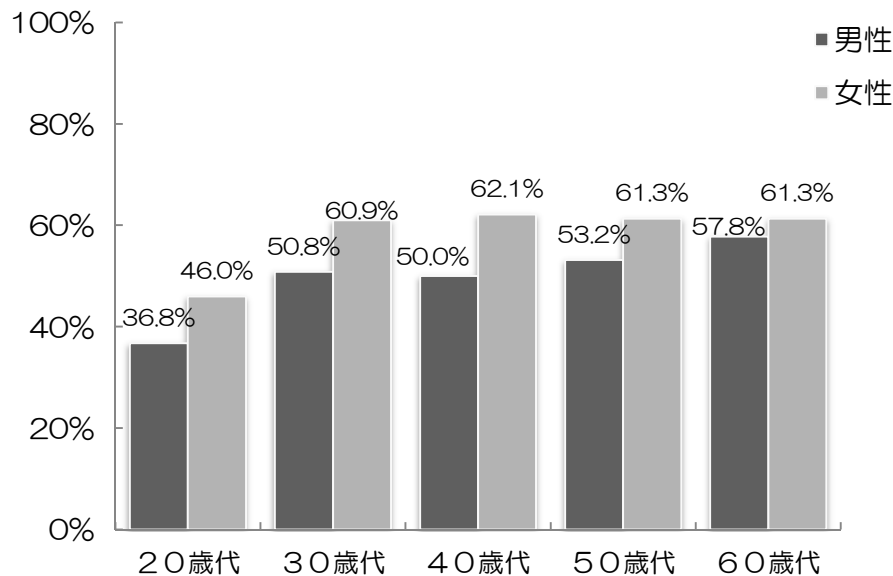
「歯や歯ぐきの自覚症状（痛み、しみる、歯のぐらつき、出血、腫れ、口臭など）がある」と回答した者は男性 44.9%、女性 47.4%（前回：男性 45.6%、女性 44.7%）である。

男女比較すると、女性の方が割合は高い。また、男女とも 60 歳代を除き、年齢階級が上がるにつれて、自覚症状がある割合が高くなっている。なお、前回調査時と比較すると、男性の割合は低下しているが、女性は高くなっている。

② 歯科検診の受診状況（問9の結果）

過去 1 年間に歯科検診を受けた者の割合は男性 5 割、女性 6 割である。

「過去 1 年間に検診を受けた」と回答した者は、男性で 51.1%、女性では 59.9%で、全体では 56.1%である。年齢階級別にみると、男女とも 20 歳代で最も低い状況であるが、40 歳代女性 62.1%で最も高く、関心の高さが伺える。なお、平成 28 年の国民健康・栄養調査での同様の質問では男性 48.7%、女性 56.5%に比べ、高い傾向となっている。



(3) -② 過去 1 年間に歯科検診を受けている人の割合

③ 歯間用清掃器具の使用の有無（問 10 の結果）

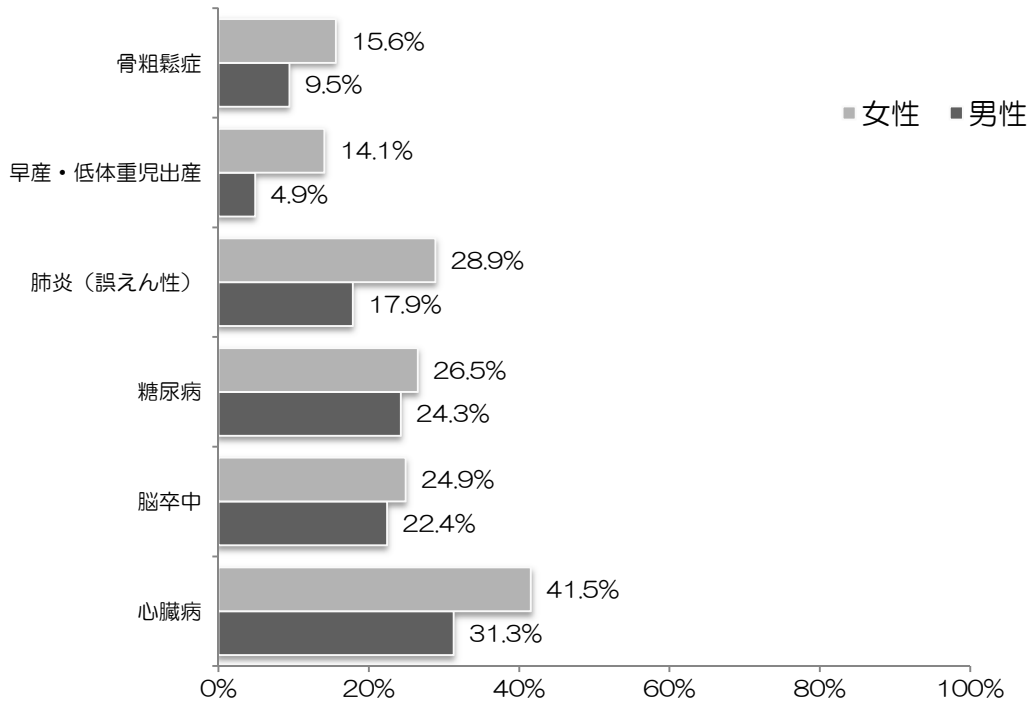
糸ようじ、歯間ブラシなどの歯間用清掃器具で歯間部の清掃を「毎日している」と回答した者は、全体で 2 割強である。

糸ようじ、歯間ブラシなどの歯間用清掃器具で歯間部の清掃を「毎日している」と回答した者は、男性 18.8%、女性 25.4%、全体 22.5%（前回：男性 17.6%、女性 18.8%、全体 18.3%）であり、年齢が上がるにつれて使用頻度が高くなっている。また、前回の割合と比べ、器具を使用しての清掃は増加している。

④ 歯周病と体に与える影響に関する知識（問 11 の結果）

歯周病が体に与える影響について「心臓病」、「糖尿病」、「肺炎」の回答が高い。

歯周病が体に与えると思う影響について、全体でみると「心臓病」37.1%、「糖尿病」25.5%、「肺炎」24.1%が順に高い。



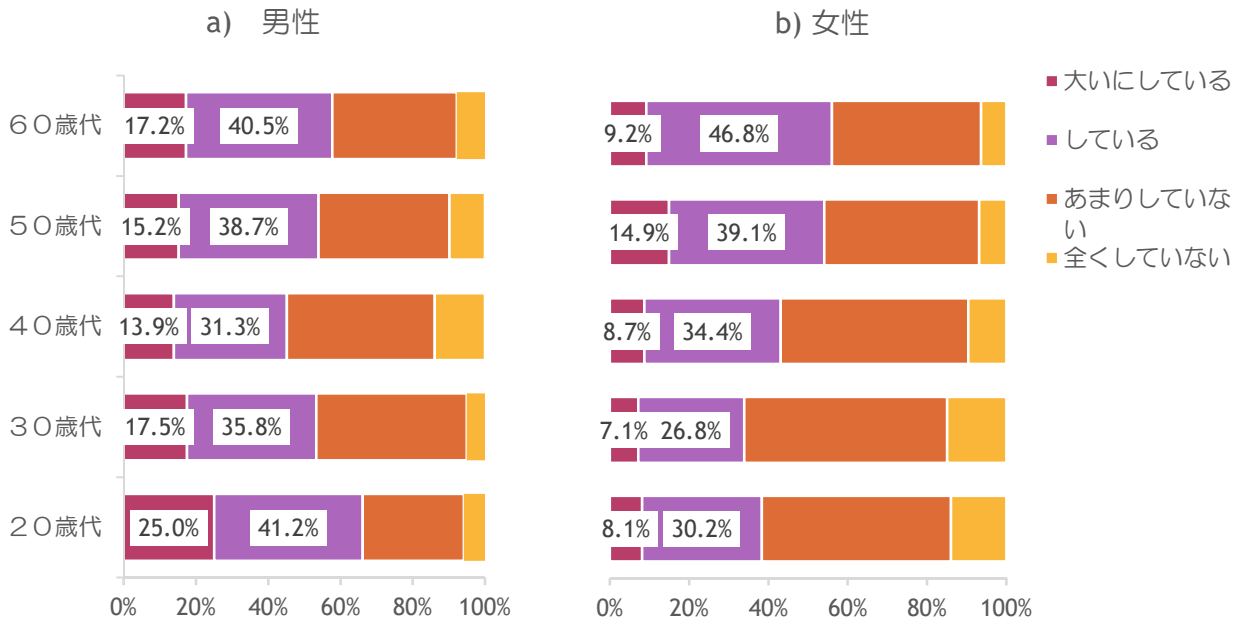
(2) -④ 歯周病と病気に関する知識（問 11 の結果）

(4) 運動について

① 日常の運動に対する意識（問 12 の結果）

「普段、意識的に体を動かしているか」に対し、「大いにしている」または「している」と回答した者の割合は、男性 53.8%、女性 45.9%（前回：男性 45.3%、女性 42.3%）である。

男女で比較すると、女性より男性の方が高い傾向であり、また、前回調査時と比べると、男女とも意識的に体を動かしている者は増加している。



(4) -① 意識的に体を動かしているか

② 1日あたりの歩いたり動いたりする時間（問 13 の結果）

1日あたり歩いたり動いたりする時間が「30分未満」の割合は、男性 22.1%、女性 22.4%であり、「90分以上」の割合は、男性 34.3%、女性 37.0%である。

「仕事や生活の中で1日平均どれくらい歩いたり動いたりしているか」に対し、「30分未満」と回答した者は男女ともほぼ同等の回答である。また、「90分以上」と回答した者は、男女とも3割を超えており、女性の方が高い傾向である。

③ 歩くスピードの状況（問 14 の結果）

歩くスピードが速いと回答した者の割合は、男性 3 割、女性 2 割である。

「同世代の同性と比較して、歩くスピードが速いですか」に対し、「歩くスピードが速い」と回答した者は、男性 31.3%、女性 20.7%であり、どの年齢階級においても、女性より男性の方が割合は高かった。

④ 運動の状況（問 15 の結果）

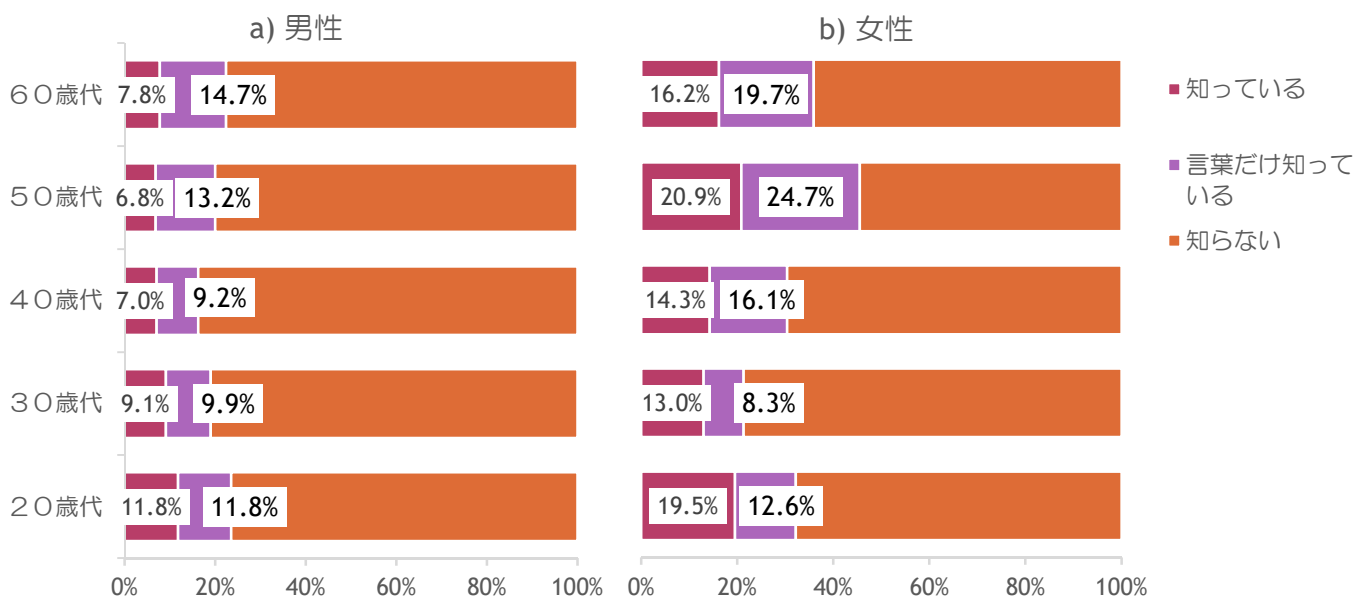
週に 2 回以上、運動を実施している者の割合は、全体で 2 割強である。

「生活のなかに、1 回 30 分以上の軽く汗をかく運動を取り入れているか」に対し、「週 2 回以上行っている」と回答した者の割合は、男性 28.9%、女性 18.5%、全体 23.1%（前回：男性 18.1%、女性：15.8%、全体 16.8%）であり、前回と比べると高く、また女性より男性の方が高い。しかし、平成 28 年度の国民健康・栄養調査の「運動習慣者の割合」男性 35.1%、女性 27.4%と比べると、男女ともに低い。

⑤ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）についての認識（問 16 の結果）

ロコモティブシンドロームという言葉やその意味を知っている者の割合は、全体で 3 割弱である。

「ロコモティブシンドロームという言葉やその意味を知っていますか」に対し、「知っている」または「言葉だけ知っている」と回答した者の割合は、男性 19.8%、女性 33.9%、全体 27.7%である。なお、健康日本 21（第 2 次）直近実績値「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している国民の割合」は 44.4%と比べると、認知度は低い状況である。



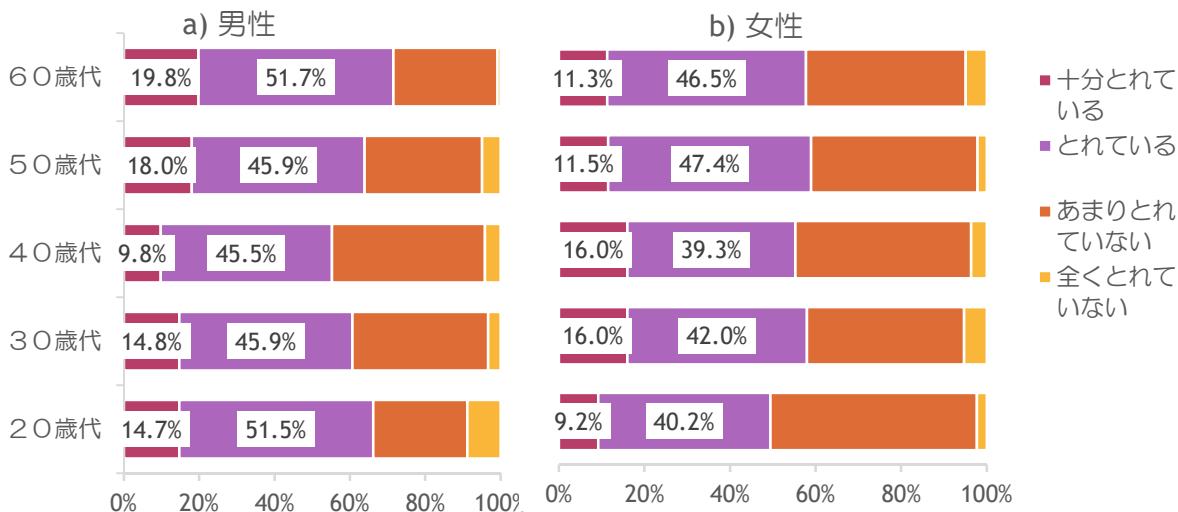
(4) -⑤ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

(5) 睡眠・ストレスについて

① 普段の睡眠で休養が十分とれていると思うか（問 17 の結果）

普段の睡眠で休養がとれている者の割合は、男性 6 割強、女性 6 割弱である。

「普段の睡眠で休養が十分とれているか」に対し、「十分とれている」または「とれている」と回答した者の割合は男性 63.0%、女性 56.7%（前回：男性 69.3%、女性 68.0%）である。前回調査時に比べ、全体的に睡眠で休養がとれている者が男女とも減少傾向である。

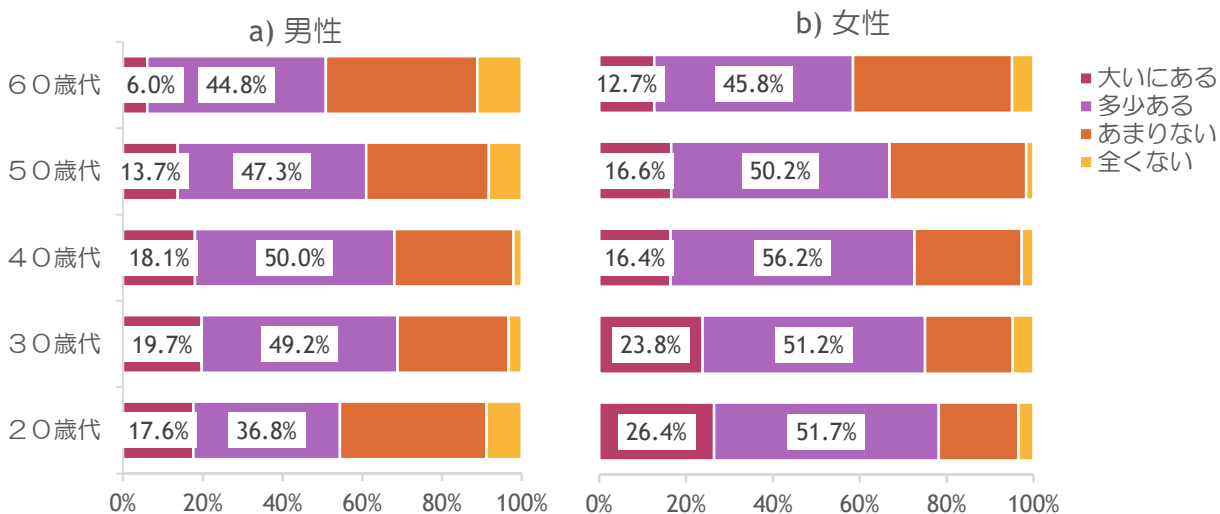


(5) -① 普段の睡眠で休養が十分とれているか

② 不満、悩み、ストレスの有無（問 18 の結果）

不満・悩み・ストレスがある者の割合は、男性 6 割、女性 7 割である。

「この 1 か月間に不満・悩み・ストレスがあったか」に対し、「大いにある」または「ある」と回答した者は男性では 30、40 歳代が高く、女性では 20、30 歳代が高い。全体では、男性 61.5%、女性 69.7%（前回：男性 62.1%、女性 67.3%）となり、何らかの不満や悩み、ストレスを訴えている。



(5) -② この 1 か月間に不満、悩み、ストレスがあったか

③ ストレスの解消法（問 19 の結果）

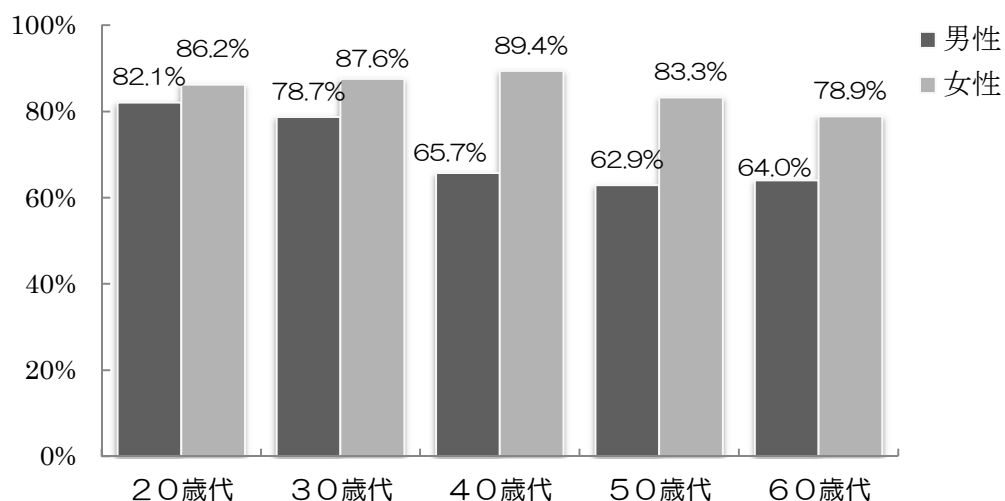
ストレスの解消法がある者の割合は、全体で6割弱である。

「ストレスの解消法があるか」に対し、「十分ある」または「ある」と回答した者は男性 58.8%、女性 59.0%（前回：男性 52.3%、女性 54.0%）で、年齢階級による差はみられなかった。

④ 相談者の有無（問 20 の結果）

相談できる人、または気軽に話し合える友人・知人の有る者の割合は、全体で8割弱である。

「不満や悩みを相談できる人、または気軽に話し合える友人、知人がいるか」に対し、「いる」と回答した者は男性 68.7%、女性 85.3%、全体 78.1%であり、女性の方が高い。



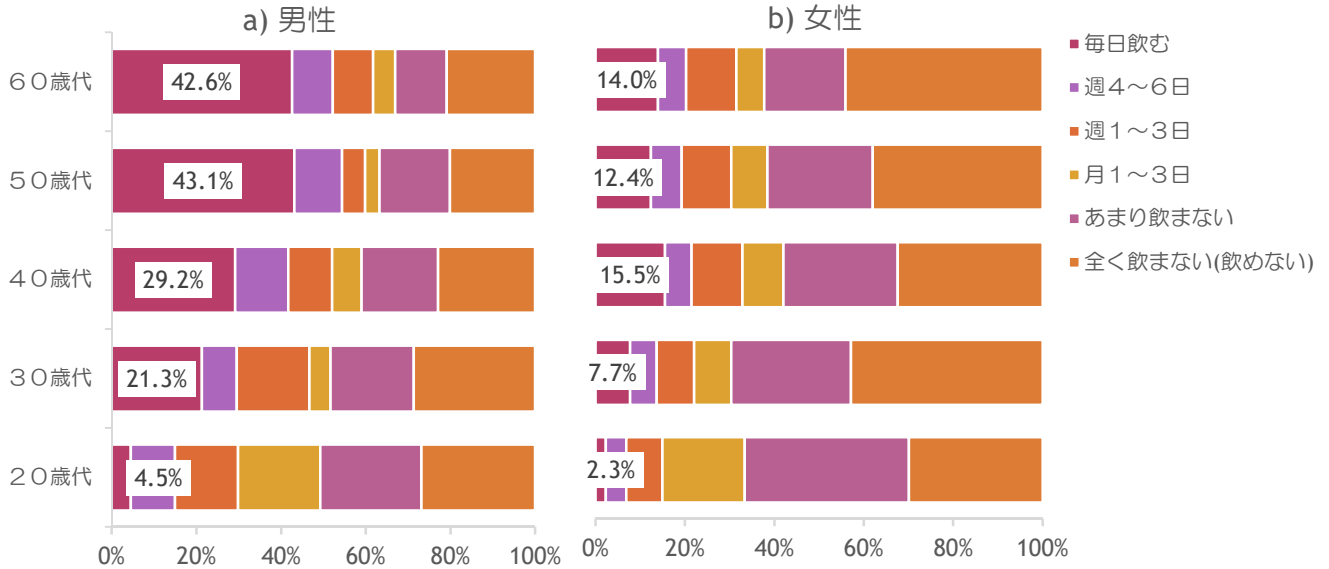
(5) -④ 不満や悩みを相談できる人、気軽に話し合える友人・知人の有る者

(7) 飲酒について

① 飲酒の頻度（問 21 の結果）

「毎日飲酒する」と回答した者の割合は、男性 3 割、女性 1 割である。

「毎日飲酒する」と回答した者は、男性 31.9%、女性 11.5%（前回：男性 37.1%、女性 13.6%）であり、男性で高い傾向にあった。また、年齢階級別にみると、20 歳代では男女ともに低く、男性では 30 歳代以降になるとその割合が高くなっている。



(7) -① 飲酒の頻度

② 1日の飲酒量（問 22 の結果）

女性は「1合まで」、男性は「1合以上2合まで」が最も割合が高い。

少なくとも週に4回以上の飲酒をする者において、その1日あたりの飲酒量をみてみると、女性では「1合まで」の割合が最も高いが、男性では「1合から2合まで」の割合が最も高い。また、男性では「2合以上（生活習慣病のリスクを高める量）」の飲酒者の割合は、38.8%と高く、平成 28 年度国民健康・栄養調査での同様の質問では、男性 14.6%であり、比較するとかなり高い傾向である。

③ 適量飲酒に対する意識（問 23 の結果）

適量飲酒を「1合まで」と正しく回答した者の割合は全体で 6 割弱である。

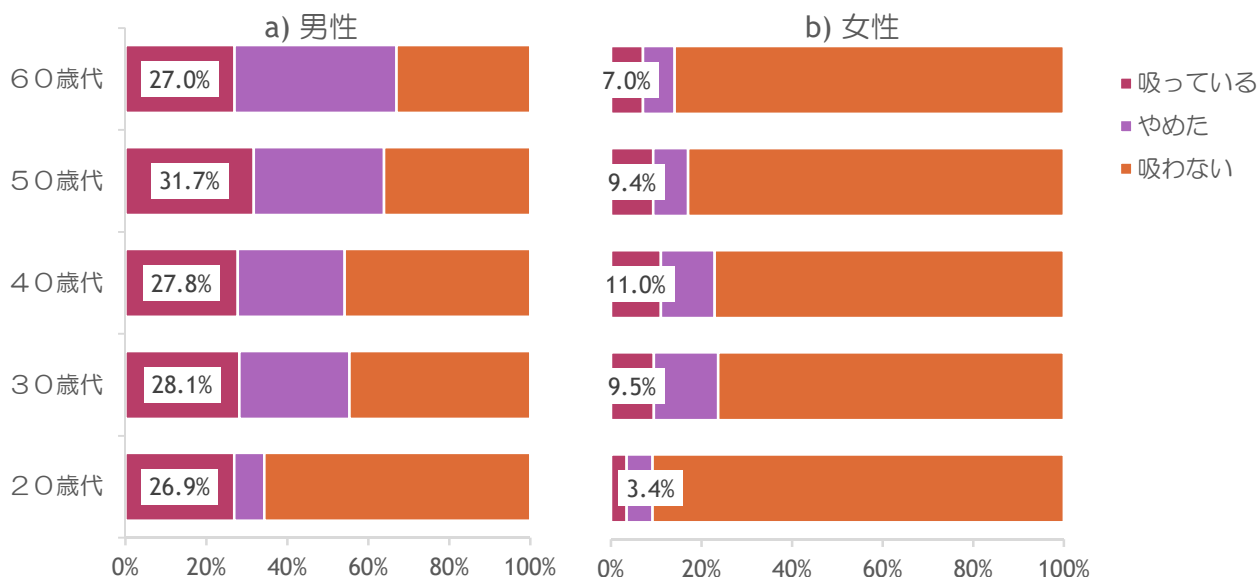
適量飲酒について、「1合まで」とした者は全体 57.4%（前回：54.2%）であり、前回と比べると、男女ともに認識は高くなっている。また、男女を比較すると、男性 55.2%、女性 59.2%（前回：男性 49.7%、女性 57.5%）で、女性の方が正しく適量飲酒を認識している。

(8) 喫煙について

① 喫煙の有無（問 24 の結果）

現在たばこを吸っている者の割合は、男性 3 割弱、女性 1 割弱である。

「現在喫煙している」と回答した者は、男性 28.8%、女性 8.8%（前回：男性 33.0%、女性：9.5%）で、前回調査時より男女とも喫煙率は下がっている。また、喫煙者の割合は、男性では 50 歳代、女性では 40 歳代が最も高く、平成 28 年の国民健康・栄養調査での喫煙率、男性 30.2% 女性 8.2% に比べ、男性は低いが、女性はやや高い。



(8) -① 喫煙の有無

② 禁煙に対する意識（たばこを現在吸っている人のみ）（問 24-(1)の結果）

すぐにでも禁煙したいと回答した者の割合は、全体で 3 割強である。

現在喫煙している人のうち、「すぐにでも禁煙したい」と回答した者は、男性 30.9%、女性 35.6%、全体 32.3%（前回：男性 15.6%、女性 19.5%、全体 16.7%）で、前回と比べると禁煙に対する意識は高まっている。

③ 自分のたばこの煙が周囲の人に与える影響（たばこを現在吸っている人のみ）（問 24-(2)の結果）

煙が与える周囲への影響について「とても気になる」又は「気になる」と回答した者の割合は、男女とも 8 割である。

喫煙者のうち、「自分のたばこの煙が周囲の人に与える影響についてどう思うか」に対し、「とても気になる」と回答した者は、男性では 20.3%、女性では 20.5%（前回：男性 15.7%、女性 26.3%）であったが、「気になる」を含めると全体で 79.1%と、ほとんどの者が自分の喫煙が周囲の人の健康に何らかの影響を与えるのではないかと認識している。

④ 分煙についての行動（たばこを現在吸っている人のみ）（問 24-(3)の結果）

「どこでも吸う」と回答したのは、全体で 6.3%である。

喫煙者のうち、「あなたのとっている喫煙行動についておたずねします」に対し、「どこでも吸う」と回答した者は、1 割をきっており、また、「喫煙できる場所で吸う」と回答した者は男女とも 5 割を超えており、多くの喫煙者が分煙行動をとれている。また、女性では「喫煙できる場所でも妊婦や子どもたちや吸わない人がいたら吸わない」と回答した割合も高い。

⑤ 自分の健康に与える影響（問 25 の結果）

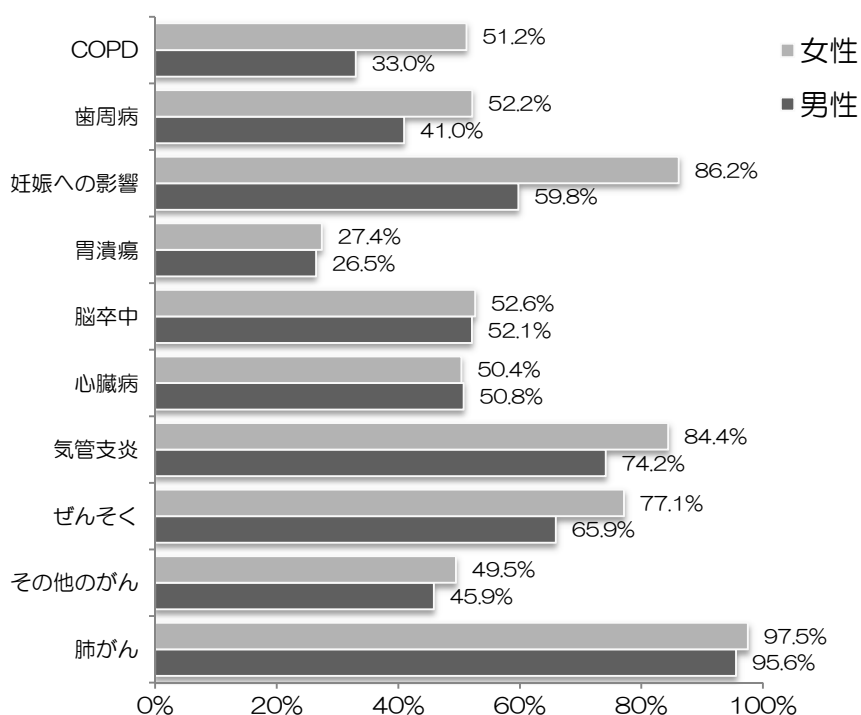
自分の健康に与える影響について「とても気になる」と回答した者の割合は、男性 36.9%、女性 53.4%（前回：男性 31.4%、女性 48.0%）である。

「たばこが健康に与える影響についてどう思うか」に対して、「とても気になる」と回答した者は、男女で比較すると、女性の方が高い。また、前回より増加しており、意識は高くなっている。

⑥ 喫煙と病気に関する知識（問 26 の結果）

喫煙が影響する病気について「肺がん」、「気管支炎」、「妊娠への影響」の回答が高い。

喫煙が影響すると思う病気について、「肺がん」96.7%、「気管支炎」80.0%、「妊娠への影響」74.7%が順に多い。「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」は、男性 33.0%、女性 51.2%、「妊娠への影響」は、男性 59.8%、女性 86.2%と男女差が大きい。

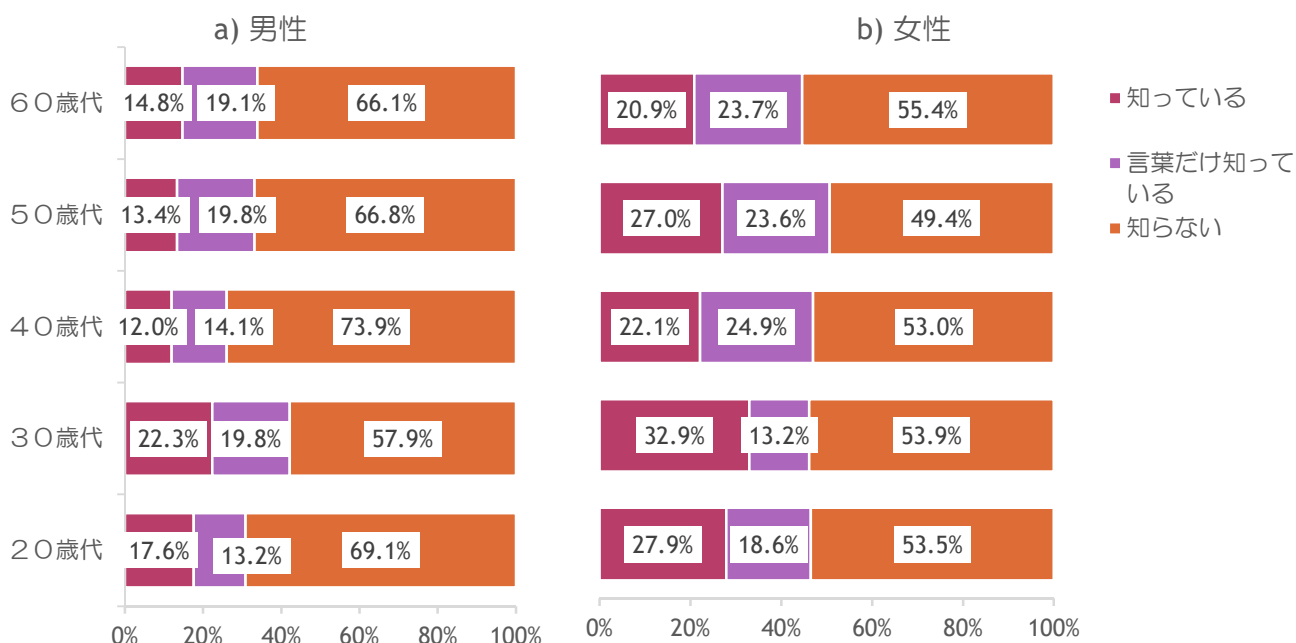


(8) -⑥ 喫煙が影響すると思う病気

⑦ COPD（慢性閉塞性肺疾患）についての認識（問 27 の結果）

COPD（慢性閉塞性肺疾患）という言葉やその意味を知っている者の割合は、全体で4割である。

「COPD（慢性閉塞性肺疾患）の言葉とその意味を知っているか」に対し、「知っている」又は「言葉だけ知っている」と回答した者の割合は、男性 33.1%、女性 47.4%、全体 41.2%である。なお、健康日本 21（第 2 次）直近実績値「COPD 認知率」25.0%と比べると、男女とも認知度は高い傾向である。



(8) -⑦ COPD（慢性閉塞性肺疾患）認知度

⑧ 禁煙外来についての認識（問 28 の結果）

禁煙外来を知っている者の割合は、全体で9割弱である。

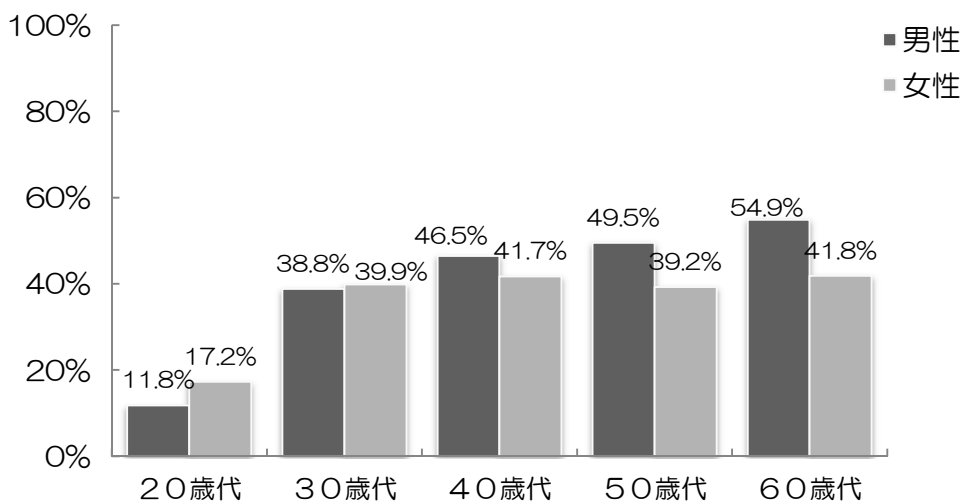
「禁煙外来（医療機関で禁煙治療を受けることができる）を知っているか」に対し、「知っている」と回答した割合は、男性 85.4%、女性 90.5%、全体 88.3%であり、認知度は高い。

(9) 地域とのつながりについて

① 地域活動への参加（問 29 の結果）

何らかの地域活動に参加していると回答した者の割合は、全体で4割である。

「何か地域活動に参加しているか」に対し、「参加している」と回答した者の割合は、男性 43.8%、女性 38.2%（前回：男性 43.8%、女性 40.2%）であり、前回と比べて、ほぼ変わりはない。また、男女ともに若年層では割合が低かった。

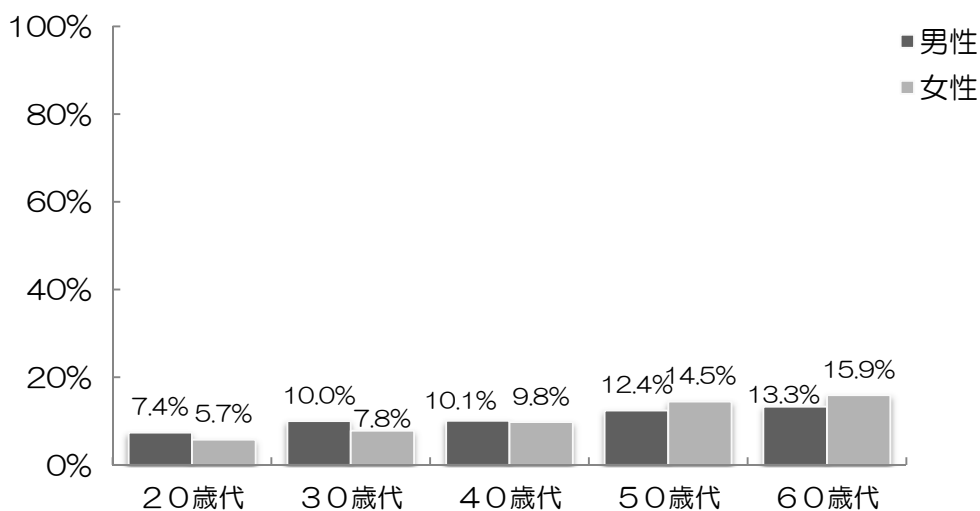


(9) -① 何らかの地域活動に参加している人の割合

② 健康づくりを目的としている活動への参加（問 30 の結果）

「健康づくりを目的として活動している」と回答した者の割合は、11.2%である。

「地域活動の中で、健康づくりを目的としているものはありますか」に対し、「ある」と答えた者の割合は、男女ともほぼ同等の割合である。



(9) -② 健康づくりを目的としている人の割合

③ 近所の人や知り合いとの付き合い（問 31 の結果）

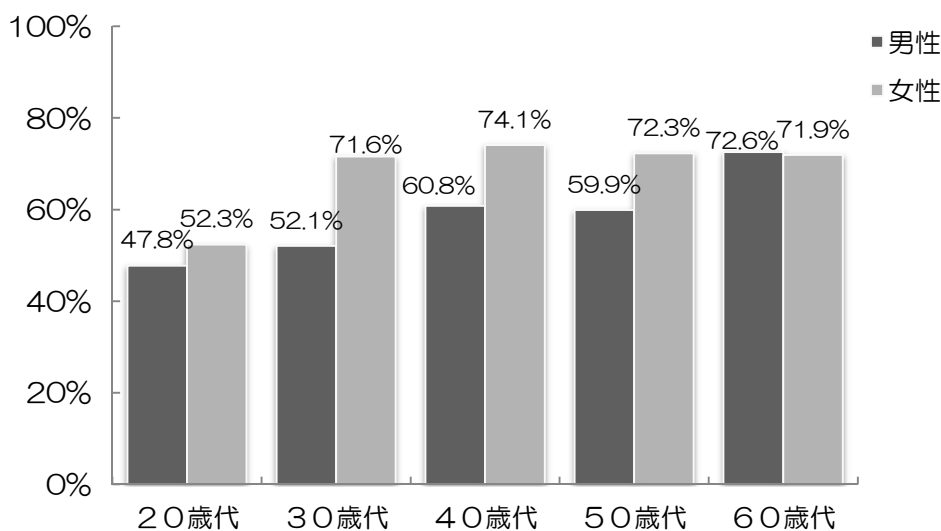
近所の人や知り合いとの付き合いができている者は男性 5 割強、女性 6 割である。

「近所の人や知り合いとつきあいでできているか」に対し、「できている」または「まあまあできている」と回答した者の割合は、男性 53.3%、女性 61.2%（前回：男性 69.7%、女性 78.9%）であった。また、男性の 40 歳代を除き、男女ともに年齢階級が上がるにつれて高くなる傾向にある。

④ 各種相談窓口の認知度（問 32 の結果）

さまざまな相談窓口を知っている者の割合は、男性 6 割、女性 7 割である。

「さまざまな相談窓口を知っているか（窓口の種類は問わない）」に対し、「知っている」と回答した者の割合は、男性 59.6%、女性 70.5%であり、各種相談窓口は比較的認知されている。



(9) -④ 各種相談窓口の認知度

(10) 元気度について

① 毎日の生活での楽しさ（問 33 の結果）

毎日の生活で楽しいことがある者の割合は8割である。

「毎日の生活で楽しいことがあるか」に対し、「十分ある」または「ある」と回答した者は、男性で80.4%、女性で83.0%（前回男性80.7%、女性81.6%）となり、いずれの年齢階級においても大部分を占めている。

② 毎日の生活での生きがい（問 34 の結果）

毎日の生活で生きがいを感じる者の割合は7割である。

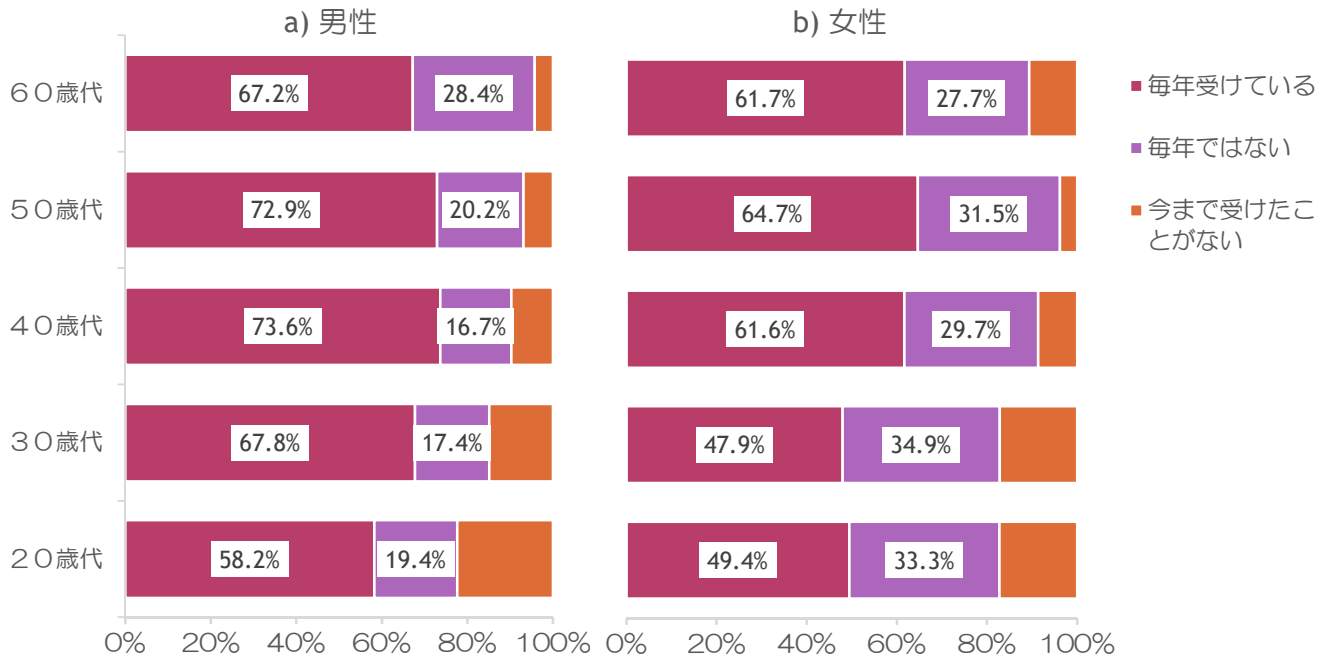
「毎日の生活に生きがいを感じるか」に対し、「とても感じている」、あるいは「感じている」と回答した者は、男性で67.9%、女性で69.8%（前回：男性72.0%、女性71.2%）である。

(11) 健診について

① 健診を受けているか（問 35 の結果）

健診を毎年受けている者の割合は、男性 7 割、女性 6 割弱である。

「あなたは健診（血圧、尿検査、血液検査など）を受けていますか」に対し、「毎年受けている」と回答した者は、男性 69.6%、女性 58.5%で（前回：男性 64.3%、女性 48.7%）、前回と比べて、健診を受診する者は増えている。また、どの年齢階級においても男性の方が高かった。



(11) -① 健診の受診状況

② 毎年受けない理由（問 36 の結果）

健診を毎年受けない理由として「受けようと思っているが、つい忘れてしまうから」が最も多い。

「健診を毎年受けていないのはどうしてですか」との問いに、男女ともに「受けようと思っているが、つい忘れてしまうから」が男性 29.1%、女性 38.0%（前回：男性 31.3%、女性 42.1%）であり、特に 60 代男性、40 代女性では 50%を超えている。

- ③ 健診で血圧が高い、脂質異常症、糖尿病と言われたことの有無（問 37、39、41 の結果）

健診で、「血圧が高い」「脂質異常症」「糖尿病」と言われたことがある者の割合は、いずれも男性の方が高い。

健診で、血圧が高いと言われたことがある者の割合は、男性 34.0%、女性 21.7%（前回：男性 35.0%、女性 21.1%）、脂質異常症は男性 24.8%、女性 19.7%（前回：男性 25.5%、女性 15.3%）、糖尿病は、男性 16.9%、女性 6.0%（前回：男性 15.0%、女性 5.6%）といずれにおいても、男性の方が高かった。

「血圧が高い」と指摘された者の中では、「治療を受けている」が 47.0%と最も高く、「脂質異常症」、「糖尿病」の者の中では、「治療は必要といわれていない」と回答した者が、46.5%、45.1%と最も高い。

- ④ 「治療を受けていたが中断している」または「まだお医者さんには行っていない」理由（問 38、40、42 の結果）

治療を受けていない理由は、「自覚症状がないから」が最も多い。

「治療を受けていたが中断している」または「まだお医者さんには行っていない」者に対し、その理由をたずねたところ、「血圧が高い」、「脂質異常症」、「糖尿病」のいずれも「自覚症状がないから」と回答した者が順に、51.0%、41.9%、41.2%と最も多かった。

(12) 身体状況について

① BMI（問 45 の結果）

BMIは、男性では40歳代で高く、女性では年齢階級が上がるにつれて高くなっている。

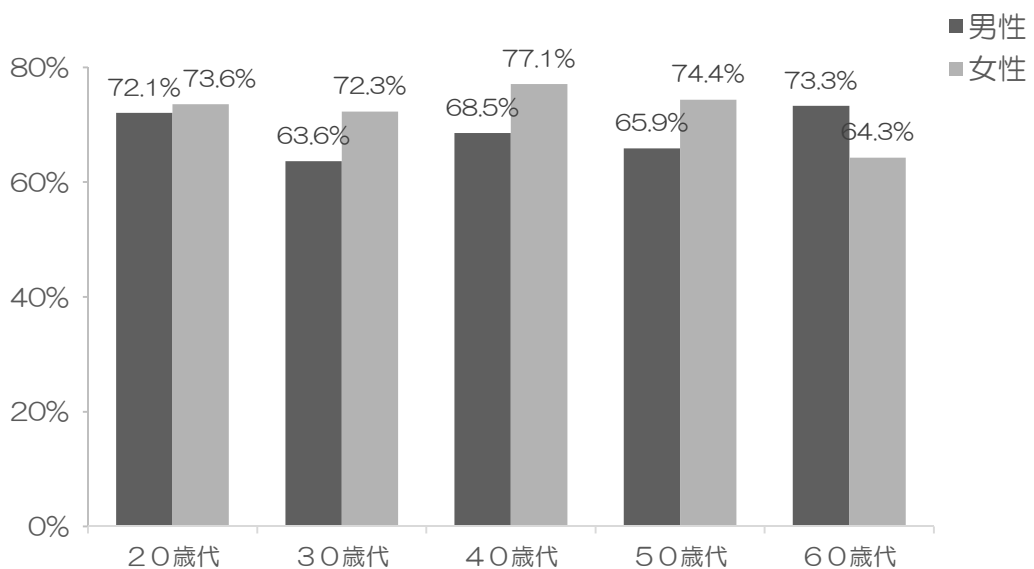
BMIの平均は男性23.3、女性21.5（前回：男性23.2、女性21.6）であり、前回と比べるとほとんど差はない。また、男性の方が高く、男性では40歳代でやや高い傾向に、女性では年齢階級が上がるとともに徐々に高くなる傾向がみられた。

※BMI(Body Mass Index)＝体重[kg]／(身長[m])²により算出

② 適正体重の認識（問 46 の結果）

適正体重を知っている者の割合は、7割である。

「適正体重を知っているか」との問いに対し、「はい」と回答した者は、男性68.0%、女性72.9%で（前回：男性49.7%、女性47.4%）であり、男女とも認識が高くなっている。



(12) -② 適正体重の認識